羅針盤

門野　岳史
Takafumi Kadono
聖マリアンナ医科大学皮膚科 主任教授，Visual Dermatology 編集委員

“鼻”と“華”

『Visual Dermatology』の部位別特集第８弾，“鼻”が完成しました．そろそろ人体一周という感じですが，どこまで続くでしょうか．鼻は体表面積に占める割合は微々たるものですが，顔面の中心に鎮座する“華”であり，自分と他人との区別に大きな影響を与えます．立体的にも構造が複雑で，腫瘍などで手術操作を加えた場合は再建が大きな問題となり，鼻根，鼻背，鼻翼，鼻尖，鼻柱と部分ごとに分けて形状を考えていく必要があります．こうした鼻ですので，皮膚症状もさまざまであり，今回も大原國章編集委員長の秘蔵の写真を中心に，さまざまな“病んだ鼻”を収集することができました．

鼻の皮膚は他の皮膚と大きく異なります．表皮が厚く，毛孔が目立ち，皮脂腺が豊富で，がっちりとした結合組織を有しています．とくに鼻翼は軟骨がないにもかかわらず，皮膚が強靱であるため綺麗なアーチを描くことができます．しかしながら鼻は頑健であるがゆえに鼻特有の弱みもあり，毛包や皮脂腺にまつわる疾患が他の部位より多くみられます．また，鼻の別の側面として，美容に大きく関わることがあげられます．自らの鼻に不満をもち，鼻を高くしたい，綺麗にしたいと多くの人は願うのですが，そうした試みが失敗に終わることがあるのも鼻にまつわる疾患の特徴としてあげられます．

“病んだ鼻”といえば芥川龍之介の短編小説“鼻”が思いおこされます．長い滑稽な鼻をもち，その鼻のために人々から揶揄され引け目を感じていた僧侶が，謎の治療により鼻を短くすることに成功するという話です．鼻が短くなることで，人々から嘲笑されなくなると思いきや，かえっていっそう人から笑われるようになり，自尊心がいたく傷つけられます．そうしたなか，ある晩急に短くなった鼻が痒くなり，翌日起きてみると元の長い滑稽な鼻に戻っていることに気づきます．そして僧は晴れ晴れとした気持ちになり，もう笑われることはないと呟いて終わるという粗筋になっています．この話の解釈はいろいろあるようですが，その一つに，自らの外観や自尊心に一喜一憂し，長い鼻と短い鼻のどちらにも己を満たすことができない人間の本能を描いているとするものがあります．これはむやみにいくら鼻をいじっても真に納得することはできないのだという単純な話ではなく，人間社会の多くの場面に当てはまります．大半の人は整容面，経済面，社会面での“花”や“華”を求め，他者との比較によって自分の自尊心を満たします．この人間の性から逃れることはよほどの聖人君子でないと難しく，私も俗物ですので，残念ながら例外ではありません．

今回取り上げた多彩な“鼻”が多少なりとも読者の皆様の参考になり，治療を通じて患者の心の“華”の回復に寄与することを願っています．ぜひさまざまな皮疹を参考に，日々の診療にお役立てください．